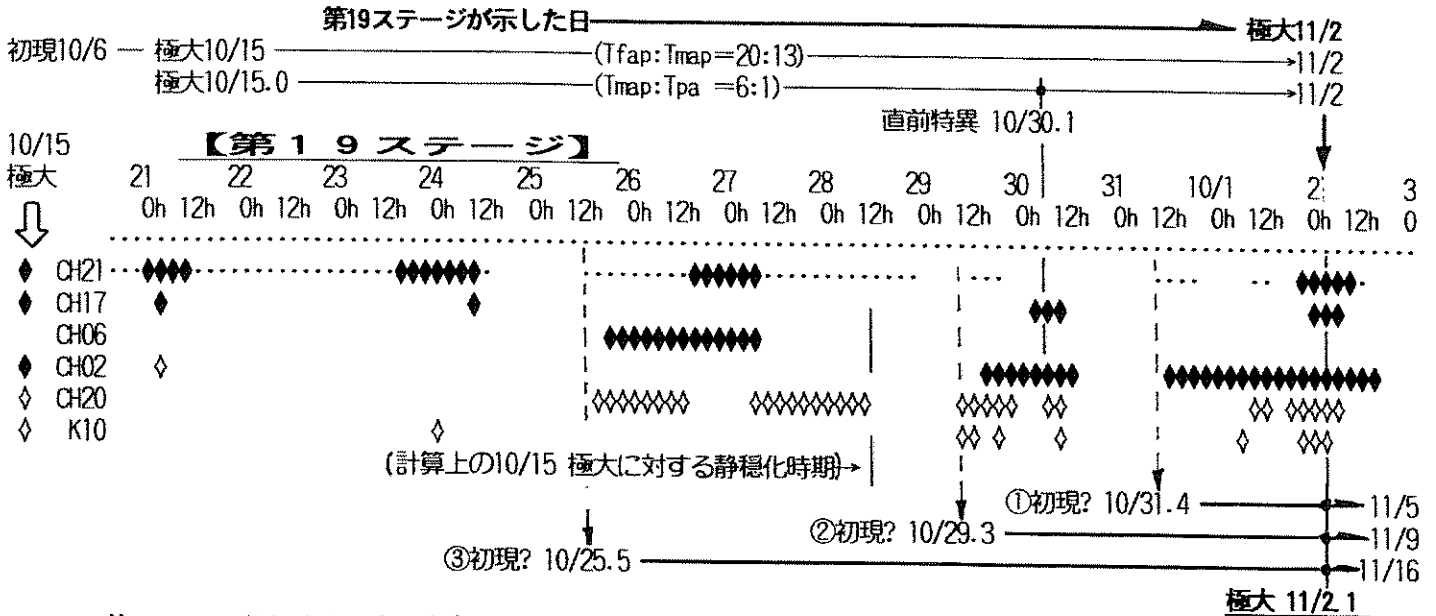


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 第19ステージが示した日=11/2 極大観測



第19ステージが示した11/2は発生日ではなく、極大であったことが確実⇒11/2~3 地震発生は否定

今後更に極大が出現する可能性も有⇒この場合は今後の観測が必要。11/2極大のみの場合は上記の可能性有。

前情報で、第19ステージ前兆が11/2を示した事。しかし最近の前兆がやや顕著に出現していることに対し、直前特異の可能性も考えました。その場合、11/2発生の可能性は否定できません。

しかし、また一方で、10/1時点でCH02系状特異が継続出現していることに対し、第19ステージが示した11/2に対し、現在が極大である可能性も報告致しました。CH02の系状特異だけでは11/2極大としては考え難いと思いましたが、CH21に11/1の20時~11/2の10時頃まで完全系状特異出現。CH17にも系状特異、CH20にも変動の大きな特異状態出現。高知観測点K1にも特異が出現し、上図に示したとおり、11/2.1に明確な極大が観測されたことを確認。従って、第19ステージが示した11/2±は地震発生日ではなく、第20ステージの極大であり、一両日中の地震発生の可能性は否定。

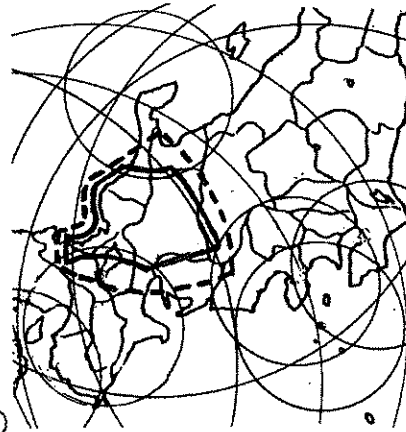
さて、11/2.1が極大であることは明確ですが、第20ステージとな

る現在、第20ステージが示す日はいつなのか? と云うことについて考えます。第18ステージも第19ステージも各々、最初に出現した極大後に複数の極大が出現致しました。今回も11/2極大後に複数の極大が出現する可能性は否定できません。この場合は、今後の観測が必要となり、現状では第20ステージが示す日を推定することはできません。但し、現在継続出現中の明確な前兆はCH02系状特異のみであることを考慮しますと、第20ステージの極大は11/2のみである可能性も考えられます。

この場合、既に11/2極大に対する初現が見られている可能性を考えますと、10/15極大以降の前兆を見直す必要があります。10/24 や10/27 の前兆群は10/15 極大の前兆期間での出現の可能性もあります。10/27ピークはCH06特異が特徴で11/2極大にCH06特異が無いことから初現の可能性は考えにくいですが、一応11/2極大に対する初現の可能性を考えますと、上図の①~③の可能性が否定できません。

②は10/15 極大に対する直前特異とした前兆群を直前特異ではないとした場合です。いずれも確定は困難ですがCH02特異が数日以内に終息し、他前兆も静穏状態であった場合は、早い時期として11/5±又は11/9±の可能性も有。但し、静穏期間は11/5発生では0.8日11/9発生では1.8日しかありません。報告が間に合わない可能性も有。11/5時点でCH02継続の場合は11/9以降となります。変化があった場合は続報予定です。

- ◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期：CH02特異終息を観測した後、推定。
可能性1) = 11月5日又は9日
(11月16日±2)
可能性2) = 今後更に極大が出現した場合は、
今後を観測して推定予定。



- ◇推定地震種：震源浅い陸域日本列島の地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)